

# JA 自己改革 ニュース

JAひすいでは、毎月「JA自己改革ニュース」を発行し地域の皆さんにJA自己改革の内容・進捗をお知らせしています

## どうして「自己改革」に取り組んでいるの？

JAひすいが自己改革に取り組む最大の目的は「**持続可能な農業と豊かで暮らしやすい地域社会を実現するため**」です。

私たちの国の農業や農村を取りまく環境は、年々厳しさを増しています。また、高齢化や少子化、高齢者福祉や子育てなど、さまざまな地域の課題も山積みです。地域の農業と暮らしを守り、次の世代につないでいくために、JAひすいはより一層の取り組みを進めています。これが、今私たちが取り組んでいる「**自己改革**」です。

以前にもお伝えしましたが、JA自己改革の基本目標は「**農業者の所得増大**」「**農業生産の拡大**」「**地域活性化への貢献**」の3つです。組合員の皆さんのニーズを叶えるために、JAひすいは、多様な農業・地域の実態に応じて、自らの創意工夫に基づく積極的かつ多彩な事業と組織活動を展開し、**地域の農業とくらしになくてはならない組織**となることを目指しています。

JAひすいは自己改革に取り組むことで「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」としての役割を発揮し、持続可能な農業と豊かで暮らしやすい地域社会を実現していきます。



# 「平成30年度農家・担い手支援策」を紹介します！

JAひすいでは、農家・担い手の減少や高齢化などの問題に加え、米価の低下、生産資材の高騰などにより、農業経営の厳しさが増している現状を踏まえ、地域農業の維持・振興に向けた取り組みを強化することを目的に、「農家・担い手支援策」を毎年作成しています。

今年度も、JA自己改革の基本目標の達成に向け「①農業者の所得増大」「②農業生産の拡大」「③地域の活性化」を重点項目に盛り込みました。支援策を記載したパンフレットは、集落別懇談会や農家組合長会議、各種会議、訪問日などで配布しました。



▲農家・担い手支援策を掲載したパンフレット



新たに、高品質・良食味米（SS米）の生産を希望する農業者に営農指導員が安定生産に向けた指導を行うことや、近年急増しているイノシシ対策に向けた電気柵の貸出し、販売需要に応えるため業務用米「つきあかり」の普及拡大や収入安定に向けた取り組みなどを策定しました。

さらに、JAひすいが所持しているビニールハウスを育苗終了後に生産者へ貸し出す取り組みを新たに実施。対象も個人園芸者まで広げ、農業所得の増大と農業生産拡大へつなげていきます。